

宿利会長 開会挨拶

皆様、おはようございます。運輸総合研究所 会長の宿利正史です。

本日は、ご多用の中にもかかわらず、多くの皆様にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。本日の運輸政策コロキウムが、当研究所による今年最初の研究発表の催しとなりますが、今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、当研究所では、2019年から、ワシントン国際問題研究所(JITTI)の研究員が運輸政策コロキウムにおいてそれぞれの研究成果を発表する「ワシントン・レポート」を行っており、本日はその第13回となります。

本日のコロキウムでは、まず岡本研究員より、海上保安の分野における「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP) 実現に向けた国際協力の現状と今後」というテーマについて研究発表を行います。

次に、上智大学法学部の兼原敦子教授より、FOIP と海洋政策、領海警備に見る日中関係、FOIP を通じた海洋の安全保障の実現などについてご講演をいただきます。兼原教授は、国際法学会代表理事として、我が国の国際法研究に関して最先端に立っておられるとともに、我が国の政府との関係でも、総合海洋政策本部参与として海洋政策について政府にご助言されています。さらに、当研究所の理事をお務めいただいております。私どもも日頃から様々なご指導をいただいております。

さて、これまでの「ワシントン・レポート」の研究テーマは、北米地域の航空や鉄道の分野が中心でありましたが、今回のテーマ「自由で開かれたインド太平洋 (FOIP)」は、太平洋からインド洋に及ぶ広い地域を対象とし、内容的にも、法の支配、経済的な協力、人材など能力の育成という幅広い内容にわたっています。このような、北米、日本及びアセアン・インド地域を俯瞰した広域的かつ戦略的な視点で、ワシントン国際問題研究所の研究員が皆様の前で発

表するのは、今回がはじめてです。

当研究所においては、昨年4月にバンコクに設立したアセアン・インド地域事務所（AIRO）と米国のワシントン国際問題研究所の活動を充実させ、東京の本部との連携を強化し、本日のテーマでもあります「自由で開かれたインド太平洋」の実現に向けて交通運輸・観光分野が果たす役割を常に意識して、そして同時に、欧州の動向や情報の把握に努めるなど一層グローバルな視点を取り入れながら、研究調査活動の質を高め、幅を広げる努力をしていく所存です。その一環として、北米から東南アジア・南アジアに至る地域を対象に、広域的かつ戦略的なテーマにつき、今後折に触れて、本日のようなセミナー・シンポジウムなどを企画・実施してまいります。

最後に、本日の運輸政策コロキウムにご参加いただきました皆様にとりまして真に有益なものとなることを期待しまして、私のご挨拶といたします。

本日は、ご参加いただきまして誠にありがとうございます。